

書かれた言葉 = 漢字

文字は“書かれた言葉”ですから、逆に、言葉には、“話し言葉”と“書かれた言葉”との二つがあると考えられます。そして、“話し言葉”が赤ちゃんの時代から与えられるように、“書かれた言葉”もまたごく自然に与えられるべきだと思います。

つまり、この二種類の言葉は、子供が関心を持つようになるのを待って与えるものではなくて、逆に、ごく自然に与えられることによって、子供が自然に関心を持つように仕向けるべきものだと思います。

言い換えれば、大人の立場から、どうしたら子供が興味を持ってくれるかを考えるのが、教育の正しい在り方でしょう。興味関心を持つまで待つというのは、決して正しい在り方ではないはずです。

教育者の中には、こういう考え方を否定する向きもあります。私は、“話し言葉”と“書かれた言葉”との違いは、それが耳から入るか、目から入るかだけの、つまり入り口の違いだけであって、どちらも同じ大脳で処理されるという、『石井・ドーマン方式』教育理論を信じて子供に対してきました。

その結果、教育者の批判をよそに、子供たちは見事にこれを吸収してくれました。そして、『石井・ドーマン方式』の教育は、子供の知能や言語能力のみならず、情緒の面においても、つまり、子供の全人格的発達に対して、最も有効な教育法であると確信するに至ったのです。